

「ワタ281系統」「ワタ3006系統」の安全性評価についての御意見・情報の募集結果について

- 1．実施期間：平成17年7月7日～平成17年8月3日
- 2．提出方法：インターネット、ファックス、郵送
- 3．提出状況：1通
- 4．主な御意見の概要及びそれに対する遺伝子組換え食品等専門調査会の回答案

御意見・情報の概要	専門調査会の回答
<p>・アグロバクテリウム法は、自然界にもともと存在する、個体間の遺伝子移動の原理を利用した技術です。この技術で導入された除草剤耐性遺伝子は、当然、自然界において、アグロバクテリウムにより当該系統から自然に流出し、他の農作物等の植物に移行する可能性があると考えられます。本件については、当該遺伝子の生産するタンパク質について、綿実油に関する知見しか紹介されておらず、他の農作物に移行した場合でなおかつそれを人間が摂取した場合について、何ら考慮されたものではありません。食品の安全性を包括的に検討した申請書類が完備しているとは認められない状態です。</p> <p>これら2系統の栽培を阻止することにより、他の農作物の安全性が担保されます。食品安全基本法の趣旨に合致するかどうか不明ですが、国内での綿実油としての使用は認めないでいただきたいと思います。</p>	<p>本報告書は、遺伝子組換えを行ったワタを食品として摂取する場合の食品健康評価について、「遺伝子組換え食品（種子植物）」の安全性評価基準に基づき、挿入された遺伝子やその導入方法に関する安全性、その遺伝子により生産されたタンパク質等の安全性及び遺伝子を挿入したことによる食品の成分変化の有無等について審査したものであります。</p> <p>当該農作物の他の農作物に対する影響等の遺伝子組換え食品の環境安全性に関する審査は、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」（カルタヘナ法）に基づき、環境省、農林水産省が担当しております。</p>